

## 【巻頭言】

# 人間福祉研究第 14 号発刊にあたって

木村 敦子  
Atsuko Kimura

広島文教女子大学に人間福祉学科が開設されて 16 年が経ち、平成 28 年 4 月には第 17 期の新生を迎えます。

15 年以上の歴史を重ねると、否が応でも時の流れを感じさせられます。しかし本学科の場合は、嬉しい形で時の流れを感じる事が多いように思います。

平成 27 年度の間人福祉学会では、昨年度に引き続き 2 度目となる島根県ブロック大会を 8 月に開催いたしました。本学卒業後、地元である島根県に帰省し、社会福祉の現場で活躍している卒業生 6 名に、大学卒業後の進路、仕事内容、福祉現場の状況、課題などを報告していただきました。島根で就職を考えている在校生も参加し、情報交換もでき、大変貴重な機会となりました。

さらに本学でも、平成 27 年 10 月 25 日に人間福祉学会を開催しました。今年は、「美樹会」50 周年記念行事が午前中に行われ、同日の午後から人間福祉学会を開催することになりました。第 1 部では、モンゴルに留学したグローバルコミュニケーション学科 2 年の引地奈月さんの記念講演が開催され、午後からは卒業生 4 名による実践報告会を開催しました。

これらのいずれの機会にも、「逞しい実践力のある人」に成長した在學生や卒業生の皆さんとの出会いが数多くありました。本学での学びが、時を経る中でしっかりと錬成され、社会福祉のさまざまな現場で、また、家庭生活や子育ての中でしっかりと活かされていることを、皆さんの元気そうな、自信に満ちあふれた姿から知ることができます。私たちが共に進めてきた学びが間違いのないものであったことが確認でき、いつも元気をもらっています。また、学会に出席された卒業生が、数年越しで悲願の国家試験合格を成し遂げたと報告してくれました。弛まぬ努力を継続し、結果を出された姿に頭の下がる思いでした。

社会福祉士はもちろん、精神保健福祉士や介護福祉士、保育士などすべての実習現場で卒業生の皆さんに会うことも多くなりました。中には、実習指導者をお願いしている卒業生もいらっしゃいます。同じ学科で学んだ先輩が、現場で実習指導にあたる…これが実習生にとってどれだけ心の支えになることでしょうか。今後もこのような良い流れが引き継がれていくことと思います。ご協力の程よろしく願いいたします。

人間福祉学会における卒業生や在學生、教員の繋

がりはますます広がり、深まっています。これからも互いに支えあい寄り添いあいながら、福祉の学びの道とともに歩んでいきたいと考えています。

巻末には平成 27 年度「卒業研究」論題一覧を掲載しております。本年度もバラエティに富んだ研究テーマが並びました。現在、福祉を学ぶ学生がどのようなことに興味を持っているのか、「時代を映す鏡」として是非ご参考になさって下さい。

本学会が学生や卒業生、教員の皆さまにとって、安心できる「心のよりどころ」としてますます充実していなくてはと改めて感じております。そのためには学会員の皆様の協力が不可欠です。今後ともご支援の程よろしく願いいたします。